

練馬・文化の会 会だより

共同代表：相川充弘 岡部昭 加藤久晴 小沼稜子 古賀義弘 田場洋和
 事務局：森田彦一 TEL：03-3951-4276 FAX：03-3951-0616
 (会費などの郵便振替：00150-7-130265 練馬・文化の会)

練馬・文化の会 第43回総会 5月17日(土)

(出欠の返信ハガキを5月10日締切で)

記念講演：大内要三 午後1時～2時30分
 総会 2時30分～3時
 懇親会 (1000円) 3時～4時30分

安倍政権の「海外で戦争ができる国づくり」への暴走が際立ち始めています。日本版NSCの発足、秘密保護法の制定、武器輸出3原則の撤回と続き、さらに教育改革など……。2014年度の文化の会の総会は「平和なくして文化なし」のスローゲンを一層高く掲げて活動を強化することが求められています。2年後には発足45周年を迎えます。改めて初心に立ち帰っ

ての取り組みが重要になっているように思います。記念講演として最近新たに入会された大内要三さん(元朝日新聞社。ジャーナリスト)に、暴走する「安倍の安全保障政策」をテーマにお話いただきます。

総会議案は当日配布いたしますが、13年度活動報告、14年度活動計画、13年度決算、14年度予算、14年度新役員選出が予定されています。

総会記念講演：大内要三さん

(日本ジャーナリスト会議会員)

安倍政権の「積極的平和主義」は日本をどこへ導くか？
 解釈改憲で、海外で戦争ができる国に

大内要三さんは2010年以降、『日米安保を読み解く 東アジアの平和のために考えるべきこと』(2010年、窓社)、『日米安保は必要か？ 安保条約の条文を読んで見えてきたこと』(2011年、窓社)、『あたご事件 イージス艦・漁船衝突事件の全過程』(2014年、本の泉)の本を著し、

安全保障政策の専門家として知られています。安倍政権の最近の安保政策の右旋回を学習するにはうってつけの人です。私たちは「安保」反対は言っても、意外に軍事的な知識などは持ち合わせていません。これを機会に是非……。

(田場記)

生々しい沖縄の現実を知ろう！琉球朝日放送制作
 「標的の村」練馬上映会；6月20日(金)午後2時半～、午後6時半～
 文化センター小ホール 屋良朝博氏講演 前売り1000円

沖縄北部の東村高江という名前をご存知でしょうか？あの新型輸送機「オスプレイ」の着陸帯建設に反対して住民が座り込みを行い、その住民を国は「通行妨害」で訴えるという前代未聞の暴挙を行いました。“力のある”国が“ひ弱な”住民を弾圧し恫喝するというSLAPP裁判です。

このドキュメンタリーは練馬でも何回か上映が取り組まれましたが、今回は沖縄問

題に長年取り組んできた柏木さんたちの呼びかけにこたえて「観る会」がつくられ、文化の会も名を連ねました。地方紙、地方局は生々しい現地の状況を厳しく伝えていますが、全国紙、大手民放はほとんど伝えていません。この高江の場合も同じです。

この機会に是非、琉球朝日放送の秀作をご覧ください。

(田場記)

戦争とはどういうものか？ その記録を知り、平和を守ろう！映画「陸軍登戸研究所」 の8月上映目指して各団体に協賛呼び掛けへ

戦争の記憶が遠くなり、薄れるにしたがって、“戦争”に向けての安倍の暴走が強まるばかりです—そうはさせじと、戦後70年になろうという最近、“戦争”に関する記録（映像も文学も）を残そうという動きが強まっています。

1年近く一般映画館での上映が終わった楠山忠行監督による映画「陸軍登戸研究所」も楠山監督の「記録に残したい」という執念により、7年にも及ぶ取材で制作された作品です。あまりにも貴重で知らせたい記録が多いということでしたので、当初は4時間の作品でしたが、結局3時間に圧縮されて一般公開されました。もう20年近く前に森村誠一により明らかにされた731部隊、沖縄波照間島に暗躍した中野学校のスパイ、そして文化の会会員の小岩さんが関わった“風船爆弾”。いずれもが登戸研究所が関わり、戦後GHQの命令でその記録・資料が消されたものです。関係者を探し出しインタビューするのに7年もか

かったのは、記録が散逸したためでした。

文化の会が武蔵大学などの協力を得て制作している「テレビみつがしわ」で作品化した「小岩昌子さんの風船爆弾の証言記録」（30分）は、関西で行われている「地方の時代映画祭」で奨励賞を獲得した秀作で、映画「登戸研究所」でもその映像の一部が使われています。そうした関係で、文化の会ではこの映画の自主上映の機会をうかがっていましたが、今夏にも自主上映が解禁になるということで、8月にも上映する計画を進めていました。

そこに東中野ポレポレで作品を見た人が練馬9条の会のメンバーが何人か現れ練馬でも上映するという声が強まり、4月8日にその打ち合わせが行われました。この打ち合わせでは「テレビみつがしわ」の戦争関連ドキュメンタリーも練馬区内で前座的に上映する企画も話し合われています。

16日の文化の会の幹事会で企画の具体的な内容を決定する方針です。(田場記)

「NHK会長・経営委員の暴言問題」で

3月16日に学習会

小滝、永田、砂川3氏が講演；90人近くが参加

従軍慰安婦問題がアメリカも巻き込んで東アジアの平和にとっての重要な争点に浮上している中、安倍政権により任命されたNHKの靱井勝人新会長が「慰安婦問題はどこにでもあった」、また経営委員になった百田尚樹氏の「南京虐殺はなかった」などの暴言が大きな問題になりました。文化の会ではこれらの発言を機に、第8回フリートークとして、3月16日にパネル討論「NHKの会長・経営委員の暴言問題を考える」を行いました。パネラーは小滝一志・放送を語る会事務局長（テレビは秘密保護法をどう伝えたか）、永田浩三・武蔵大学教授（“慰安婦”番組改変事件から暴言問題の背景）、砂川浩慶・メディア総研所長・立教大学准教授（NHKと放送法）の3氏。

3人のパネリストを揃えたということもあって話題を呼び、当日は「赤旗」記者も

取材に見え、結局「秘密保護法のテレビ報道分析」とパネル討論の様子が別個の記事（3月18日付けと同20日付け、同封）として紹介されました。

終了後の2次会には3人のパネリストも参加し、総勢14人にもなり、談論風発、安倍政権の右旋回を肴に大いに話が盛り上がりしました。

○引き続きNHK会長・2経営委員罷免の署名にご協力ください！

暴言を吐いたNHK会長、2経営委員は依然としてその座にしがみついています。罷免要求の署名同封しましたので、田場

（〒176-0001練馬区練馬1-29-14）
が署名用紙の小滝さんあてにご返送ください。

（田場記）

**（エッセイ）86歳になるまで森をテーマに36年間。
彫金作品を創り続けてきたのはなぜか
岡部 昭（文化の会・共同代表）**

今から40年以上も前、私は北信州の標高1500mにあるカヤの平という高原に行き、初めてブナの原生林を見た時、その美しさは言葉には出来ませんでした。アンデルセンの民話を生んだ森はブナの原生林だったということえお思えばその美しさを想像できるでしょうか。氷河期が終わってから1万年間、ヨーロッパ大陸には産業革命が始まる前まで、このブナの原生林がひろがっていたのですが、今その類まれな美しい原生林はまだ日本には残っています。私がこの森に出会えたのはまさに偶然そのものだったのです。しかしそのころ政府機関はこのブナは全くの役立たずの木として、林学の学者達の提言で、皆伐を進めていました。その時地元木島平村では役場と村民あげて反対していました。私は具象に徹する美術家として、底知れぬ美には、深い、深い哲学的真理があるに違いないと考えていて、

身も心もその森に引きずりこまれました。しかし自由に伸び伸びと生きている森はそのままでは全く絵になりません。やがて森の皆伐も中止となりブナを守ろうという意見が全国に起こり、やがて東北の白神のブナの原生林が世界遺産登録となるのです。

重力に逆らう根っこに命の形を見る

私はこの森に行くたびに。写生を重ね、7年も過ぎた頃、この森の美しいシルエットを利用した小品を作り、その後、絵になるような形が少しずつ見え始め、出会ってから20年も過ぎた頃、1つ1つの若木も巨木も自由に幹と枝を伸ばしている形から、地球の重力に逆らって生きている形が見えてきました。更に何年も経ったころ、何トンも何十トンもある巨木を支えている根っこが素晴らしく美しく見えてきました。それまでは、根っこは気持ち悪くて絵にならないと思っていました。この木が重力に逆ら

う形の中に素晴らしい命の形が見えるのです。今86歳を迎え、自動車の運転も6年前返上し、あの森にはいけません、頭の中に詰まった記憶で作品を創り続けています。私達人類を始め動物植物の生命とその進化を支えてくれた森に対して、私は心から尊敬と愛着を持ってこの森を作っています。

地球の反逆として想定外の気候変動が

近世人類が物質的幸福を追求してきた結果、空気中のCO₂濃度はこの150年の間に、0.03%から0.04%に増加し、今迄にはない暑さは誰もが実感しているところです。気温上昇により、今シベリアやカナダの永久凍土の解氷が始まると、ついこの前まで予想もしなかった、何万年も前

の腐食植物の分解が始まり温室効果がCO₂の20倍もあるメタンガスの放出が始まり、更なる気候変動の加速が予想されます。近い将来、人間の浅知恵では予想も出来ない新しい現象が現れないか不安です。この想定外の現象を私は人間に対する地球の反逆と考えています。この不安の全てを込めて森を作るのです。7世紀百済から仏教と共に日本に渡来してきた彫金も今終焉を迎えようとしています。私を最後の一人という人もいます。私は今、百済人が法隆寺に作った高さ5mを越す灌頂幡、仏教の素晴らしい未来を願ったこの様式で、私達人間の幸を願い込め、彫金美術の最後を飾ろうと思い、7作目の灌頂幡『命溢れる森—2』(高さ3m)を作りました。

文化の会の幹事・共同代表会議のご案内 (会員であればどなたもご参加いただけます)

4月16日(水)午後6時半～高野台のアニメセンター(石神井庁舎ではありませんので、お間違えないように)。総会議案、

登戸上映企画、武蔵大制作の「原発デモ」ドキュメンタリー視聴などが議題です。



当会会員の桂南なん師匠(落語芸術協会真打)の独演会、第25回「わらいぶ落語会」が下記のとおり行われます。是非、お越しく下さい。

午後2時から3時30分

○会場：
「ジンギスカン伍大」
練馬区豊玉北5-20-10
電話 3948-1285



○演目：死神 他一席
(間に「江戸クイズ」15分)
○日時：2014年4月29日(火)

○木戸銭：1,000円
○懇親会：2,500円
○主催：「わらいぶ」
実行委員会

(中村記)

年会費納入のご案内

会費未納の方には振り込み用紙同封しましたので、よろしく!

会費等の問い合わせは会計担当の齋田氏(3948-5129)まで